

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
29-5	高等学校	国語	古典B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
109文英堂	古 B 356	古典B		

1. 編修の基本方針

- ・ 古典としての古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てられるよう配慮した。
- ・ 我が国の文化の特質や中国文化との関係について考えるとともに、古典への興味・関心を喚起させるために、古典という言語文化を正しく継承し、それを現代に生かす態度を育てるよう配慮した。
- ・ 教材は、すべて言語作品、言語的文化遺産として優れたもの、我が国の言語文化に対する関心が育まれるもの、生徒の情緒・感性、その知的探究心に訴える豊かな内容をもつものという観点から精選し、古文・漢文教材の適量化および相互の有機的連関に配慮し、全体としての有機的なつながりやバランスにも配慮した。
- ・ 古典に親しみを持ってもらうため、「古文に親しむ」「漢文に親しむ」と題したコラムをはじめ、各単元の扉に、作品の成立年代や関連事項をまとめた年表を設けた。

2. 対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	・ 人間の真理の諸相を的確な筆で描いた『徒然草』を取り上げた。	18頁1行目～ 27頁2行目
	・ さまざまな人間の行動をたとえ話などに象徴させ、人間の真理を衝いたものとして「故事・小話」の諸編を取り上げた。	226頁1行目～ 232頁6行目
	・ 真理を求める態度と道徳心の涵養を養うように、孔子の生き方や学問、修養などに関する誠実な姿勢を表した「論語」(9章)を取り上げた。	262頁1行目～ 267頁4行目
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	・ 「日本永代蔵」の「世界の借屋大将」は徹底した合理主義的思考によって一代で財をなした「藤市」の姿を通して、自主及び独立の精神と勤労を重んずる態度を養うよすがとなるよう取り上げた。	206頁1行目～ 209頁4行目

<p>第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文編「論語」では、途中で止めるのも、努力して進むのも、すべて自分自身の責任であるとする「子罕」編「譬如為山…」と、正義と責任(信義)について述べた「顔淵」編「子貢問政子曰…」を取り上げた。 	<p>263頁3行目～4行目・263頁10行目～264頁4行目</p>
<p>第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊重と、自然を大切にすることを涵養する「和歌」「俳諧」の単元を取り上げた。 	<p>98頁1行目～104頁7行目・112頁1行目～113頁10行目</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・晩秋の雨後の朝露三態を鋭敏な感覚でとらえた『枕草子』「九月ばかり、夜一夜」を取り上げた。 	<p>78頁1行目～9行目</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・古都咸陽の東の城壁の高殿に登って、眼前の自然を眺めながら秦漢の時代を偲び、悠久の自然と生命の尊さを歌った「咸陽城東樓」を取り上げた。 	<p>255頁1行目～5行目</p>
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古文編では、古文作品を通じて我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養できるよう教材化に配慮した。 	<p>古文編全体</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文編では、漢文作品を通じて我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を養うとともに他国を尊重する態度を涵養できるよう教材化に配慮した。 	<p>漢文編全体</p>
<p>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・教材には古典について書かれた近代以降の文章を収録した。また現代の言葉との比較を考えさせる意味も含めた日本漢文「遠慮」を収録した。 ・教材をよりよく理解するために、各単元の扉に年表形式でその単元理解に関連する事項を、また適所にコラムや文法事項の確認のページを設けた。 		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
29-5	高等学校	国語	古典B	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
109文英堂	古B 356	古典B		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ・ 古典としての古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てられるよう配慮した。
- ・ 我が国の文化の特質や中国文化との関係について考えるとともに、古典への興味・関心を喚起させるために、古典という言語文化を正しく継承し、それを現代に生かす態度を育てるよう配慮した。
- ・ 教材は、すべて言語作品、言語的文化遺産として優れたもの、我が国の言語文化に対する関心が育まれるもの、生徒の情緒・感性、その知的探究心に訴える豊かな内容をもつものという観点から精選し、古文・漢文教材の適量化および相互の有機的連関に配慮し、全体としての有機的なつながりやバランスにも配慮した。
- ・ 古典に親しみを持ってもらうため、「古文に親しむ」「漢文に親しむ」と題したコラムをはじめ、各単元の扉に、作品の成立年代や関連事項をまとめた年表を設けた。

2. 対照表

図書の構成 ・ 内容	学習指導要領の内容								該当箇所	
	(1)				(2)					
	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ		エ
<古文編>										
第一部										
1 説話 (一)										
《十訓抄》一 文字一つの返し	○	○	○	○		○				10頁
二 笛吹きの方と名器「大丸」	○	○	○	○				○	○	12頁-13頁
《古今著聞集》一 刑部卿敦兼と、その北の方	○	○	○	○				○	○	14頁-15頁
文法のチェックポイント1	○									16頁
2 随筆 (一)										
徒然草										
一 あだし野の露	○	○	○	○				○	○	18頁-19頁
二 家居のつきづきしく	○	○	○	○		○		○	○	20頁-21頁
三 悲田院の堯蓮上人は	○	○	○	○				○		22頁-23頁
四 世に従はん人は	○	○	○	○		○		○	○	24頁-25頁
五 相模時頼の母は	○	○	○	○				○		25頁-27頁
方丈記										
一 ゆく河の流れ	○	○	○	○				○	○	28頁-29頁

二 安元の大火	○	○	○	○				○	○	30頁-32頁
文法のチェックポイント2	○									34頁
3 物語(一)										
伊勢物語										
一 初冠	○	○	○	○				○		36頁-37頁
二 渚の院	○	○	○	○		○	○	○	○	38頁-40頁
三 小野の雪	○	○	○	○				○		41頁-42頁
平家物語										
一 忠度の都落ち	○	○	○	○				○	○	44頁-47頁
二 敦盛の最期	○	○	○	○		○		○	○	49頁-53頁
古文に親しむ			○	○	○		○	○	○	54頁
4 日記・紀行										
土佐日記										
一 羽根	○	○	○	○		○		○		56頁-57頁
二 船旅の不安	○	○	○	○				○	○	58頁-59頁
更級日記										
一 あづま路の道の果て	○	○	○	○		○		○		60頁-61頁
二 源氏の五十余巻	○	○	○	○		○	○	○	○	62頁-63頁
三 荻の葉	○	○	○	○					○	64頁-65頁
奥の細道										
一 白河の関	○	○	○	○				○	○	66頁
二 飯塚	○	○	○	○				○	○	67頁-68頁
三 大山越え	○	○	○	○				○	○	68頁-69頁
古文に親しむ			○	○	○		○		○	72頁
5 随筆(二)										
枕草子(一)										
一 ありがたきもの	○	○	○	○		○		○	○	74頁
二 すさまじきもの	○	○	○	○			○	○		75頁-76頁
言語活動「ものづくり」	○	○		○				○		77頁
三 九月ばかり、夜一夜	○	○	○	○		○			○	78頁
四 中納言参りたまひて	○	○	○	○				○		79頁-80頁
文法のチェックポイント3	○									82頁
6 物語(二)										
源氏物語(一)										
一 桐壺	○	○	○	○				○		84頁-88頁
二 若紫	○	○	○	○				○	○	89頁-94頁
古文に親しむ	○	○	○	○	○	○		○		96頁
7 和歌・歌謡・俳諧										
和歌										

《万葉集》石見の海…	○	○	○	○			○	○	○	98頁-104頁
石見のや…【参考】石見乃也…	○	○	○	○			○	○	○	
笹の葉は【参考】小竹之葉者…	○	○	○	○			○	○	○	
君がため…	○	○	○	○			○	○	○	
《古今和歌集》ひとはいさ…	○	○	○	○			○	○	○	
ひさかたの…	○	○	○	○			○	○	○	
花の色は…	○	○	○	○			○	○	○	
《新古今和歌集》春の夜の…	○	○	○	○			○	○	○	
風通う…	○	○	○	○			○	○	○	
またや見ん…	○	○	○	○			○	○	○	
寂しきは…	○	○	○	○			○	○	○	
志賀の浦や…	○	○	○	○			○	○	○	
《山家集》願はくは…	○	○	○	○			○	○	○	
《金槐和歌集》箱根路を…	○	○	○	○			○	○	○	
《参考》『短歌をよむ』俵万智	○						○	○	○	
歌謡										
《梁塵秘抄》仏は常に…	○	○	○	○			○	○	○	108頁-111頁
遊びをせむとや…	○	○	○	○			○	○	○	
舞へ舞へ…	○	○	○	○			○	○	○	
山伏の…	○	○	○	○			○	○	○	
《閑吟集》さて何とせうぞ…	○	○	○	○			○	○	○	
思ひまはせば…	○	○	○	○			○	○	○	
思ひ出すとは…	○	○	○	○			○	○	○	
人買ひ舟は…	○	○	○	○			○	○	○	
あまり言葉の…	○	○	○	○			○	○	○	
俳諧										
満丸に…	○	○	○	○			○	○	○	112頁-113頁
落花枝に…	○	○	○	○			○	○	○	
花よりも…	○	○	○	○			○	○	○	
さればここに…	○	○	○	○			○	○	○	
大晦日…	○	○	○	○			○	○	○	
五月雨を…	○	○	○	○			○	○	○	
梅一輪…	○	○	○	○			○	○	○	
こがらしの	○	○	○	○			○	○	○	
朝顔に…	○	○	○	○			○	○	○	
春の海…	○	○	○	○			○	○	○	
しづかさや	○	○	○	○			○	○	○	
8 評論										
《古今和歌集仮名序》一 やまと歌は	○	○	○	○			○	○	○	116頁-118頁
《無名草子》一 いとめでたきもの	○	○	○	○			○	○	○	120頁-121頁
《去来抄》一 行く春を	○	○	○	○			○	○	○	122頁-123頁
二 岩鼻や	○	○	○	○			○	○	○	124頁-125頁

文法のチェックポイント4	○									126頁
第二部										
1 説話										
《古事談》一 安養の尼と強盗	○	○	○	○		○	○	○	○	128頁-129頁
《宇治拾遺物語》一 伴大納言応天門を焼く	○	○	○	○			○	○	○	130頁-135頁
古文に親しむ			○	○			○	○	○	136頁
2 随筆										
《枕草子》一 上に候ふ御猫は	○	○	○	○			○	○		138頁-141頁
二 雪のいと高う降りたるを	○	○	○	○	○			○		142頁
三 この草子	○	○	○	○	○		○	○	○	144頁-145頁
古文に親しむ			○	○			○	○	○	146頁
3 物語(一)										
大鏡										
一 雲林院の菩提講	○	○	○	○			○	○	○	148頁-150頁
二 花山院の出家	○	○	○	○			○	○	○	151頁-154頁
三 三船の誉れ	○	○	○	○			○	○	○	155頁-156頁
四 隆家と道長	○	○	○	○			○	○	○	157頁-158頁
古文に親しむ	○		○	○			○	○	○	160頁
4 日記										
《蜻蛉日記》一 嘆きつつ	○	○	○	○			○	○		162頁-164頁
《和泉式部日記》一 薫る香に	○	○	○	○			○	○		166頁-168頁
《紫式部日記》一 土御門殿の秋	○	○	○	○			○	○		170頁-171頁
文法のチェックポイント5	○								○	172頁
5 物語(二)										
源氏物語(二)										
一 夕顔	○	○	○	○			○	○	○	174頁-178頁
二 葵	○	○	○	○			○	○	○	179頁-182頁
三 須磨	○	○	○	○	○		○	○	○	183頁-186頁
四 御法	○	○	○	○			○	○	○	187頁-190頁
古文に親しむ		○	○	○				○	○	192頁
6 評論(二)										
《無名抄》一 深草の里	○	○	○	○			○	○		194頁-195頁
《三冊子》一 不易流行	○	○	○	○			○	○	○	196頁-197頁
《玉勝間》一 兼好法師が詞のあげつらひ	○	○	○	○		○	○	○		200頁-201頁
《参考》花は盛りに(徒然草)	○	○	○	○			○	○	○	203頁
古文に親しむ			○	○			○	○		204頁
7 近世の小説										
《日本永代蔵》一 世界の借屋大将	○	○	○	○			○	○	○	206頁-209頁
《雨月物語》一 浅茅が宿	○	○	○	○			○	○	○	212頁-217頁
8 上代の文学										
《古事記》一 須佐之男命の大蛇退治	○	○	○	○			○	○		220頁-223頁
古文に親しむ	○					○	○			224頁

< 漢文編 >										
第一部										
1 故事・小話										
苛政猛於虎也	○	○	○	○	○			○		226頁-232頁
朝三暮四	○	○	○	○	○	○		○	○	
漁父利	○	○	○	○	○	○		○	○	
塞翁馬	○	○	○	○	○	○		○		
王子猷	○	○	○	○	○			○		
秦西巴	○	○	○	○	○			○		
《日本漢文》所争在弓箭不在米塩	○	○	○	○	○	○	○	○	○	234頁
漢文に親しむ	○			○	○	○	○		○	236頁
2 文章										
漁父辞	○	○	○	○	○			○	○	238頁-244頁
捕蛇者説	○	○	○	○	○			○	○	
漢文に親しむ		○	○	○	○			○	○	246頁
3 漢詩										
登鶴鵲楼	○	○	○	○	○			○	○	248頁-257頁
鹿柴	○	○	○	○	○			○	○	
涼州詞	○	○	○	○	○			○	○	
楓橋夜泊	○	○	○	○	○			○	○	
早発白帝城	○	○	○	○	○			○	○	
芙蓉楼送辛漸	○	○	○	○	○			○	○	
過故人荘	○	○	○	○	○			○	○	
除夜宿石頭駅	○	○	○	○	○			○	○	
登高	○	○	○	○	○			○	○	
咸陽城東楼	○	○	○	○	○			○	○	
桃夭	○	○	○	○	○			○	○	
勅勒歌	○	○	○	○	○			○	○	
漢文に親しむ	○		○	○	○			○	○	260頁
4 思想										
《論語》(為政)(述而)(子罕)(衛靈公)(顔淵)(先進)(学而)(八佾)(季氏)	○	○	○	○	○			○		262頁-267頁
《孟子》天爵・人爵	○	○	○	○	○			○		268頁-271頁
四端《参考》性悪	○	○	○	○	○			○		
5 史話										
荆軻入秦	○	○	○	○	○			○	○	274頁-276頁
貞観之治・三題										
(一) 路不拾遺	○	○	○	○	○			○	○	277頁-281頁
(二) 創業・守成	○	○	○	○	○			○	○	
(三) 西域賈胡	○	○	○	○	○			○	○	
鴻門之会	○	○	○	○	○			○	○	282頁-287頁
漢文に親しむ		○	○	○	○			○		288頁
第二部										

1 文章										
帰去来辞	○	○	○	○	○			○	○	290頁-299頁
前赤壁賦《参考》赤壁	○	○	○	○	○			○	○	
2 漢詩										
長恨歌《参考》『源氏物語』	○	○	○	○	○			○	○	302頁-310頁
漢文に親しむ		○	○	○	○				○	312頁
3 思想										
《老子》無為	○	○	○	○	○	○		○	○	314頁-315頁
無用之用	○	○	○	○	○	○		○	○	
《莊子》混沌	○	○	○	○	○	○		○	○	316頁-319頁
夢為胡蝶《参考》『科学者のこころ』	○	○	○	○	○			○	○	
《韓非子》侵官之害	○	○	○	○	○			○		320頁-322頁
二人説	○	○	○	○	○			○		
漢文に親しむ			○	○	○			○		324頁
4 史話										
四面楚歌	○	○	○	○	○			○	○	326頁-328頁
《諸葛亮伝》水魚之交	○	○	○	○	○	○		○	○	329頁-333頁
《日本漢文》遠慮	○	○	○	○	○	○	○			334頁
文法のチェックポイント 漢文重要句形の整理	○									336頁-342頁